

# 播州路

福元早夫・え・山本文彦



ぼくが、久美子と結婚したとき、祖母は反対しなかつた。反対しなかつたどころか、おおいに賛成だった。

南九州のぼくたちの故郷の人々は、自分の息子や娘たちの結婚は、同郷人同志で、という観念がある。とりわけ親たち、なんづく、父母亲たちにそれが強いようにおもう。

久美子とは同郷ではなかつた。その彼女と一緒になるということは、ぼくにとって、ちょっとした勇気のいることだつた。神戸で生まれ、神戸でそだつた彼女と、この先ずっと、神戸で生活をしていく、ということは、ぼくのまえから、故郷が、かんせんに、抹殺されてしまうということになる、と思えたのだ。ぼくは考えこんだ。

祖母は、それでいいのだ、といった。ぼくのまぶたのうらがわにすみづける母のことを、祖母は知っていたのだとおもう。故郷と何ら関わりをもたない久美子と結婚することによって、母から、ぼくが、完全に離別できると、祖母はいうのだった。

しかしそれは、たんなる血のつながりとしての故郷ではなかつたのか。ぼくにとって故郷とは、むろん母もふくめて、ぼくをほぐんでくれたあのシラス大地であり、強烈な南国の太陽であり、山であり川であり、とりもなおさず、ぼく自身なのだ。

久美子と出会ったのは市の読書サークルでのことだつた。読書会へたどりつくまでに、ぼくは自分をさがしてあちこち歩きつづけたものだ。だけど、どこへ行つても、自分を探しだし、つかみとることはできなかつた。

中学を卒業して、集団就職列車にのつて、ぼくは神戸へやつてきた。製鉄工場の養成工となつたのだ。養成工としての三年間は、規律のきびしい軍隊のような生活を想像させた。午前六時の起床から、午後九時の就寝まで、敬礼ではじまつて敬礼で終り、点呼で明けて点呼で暮れるまいにちの連続だつた。

木造モルタルの二階建てが五棟ならんだ寮の中で、ぼくらは大きな太鼓の音にありまわされた。四〇〇人ちかい仲間たちは、ぼくと似たりよつたりの、貧しい農山村の出身者がおかただつた。九州、四国、山陰、北陸、東北、と、ことばもまちまちで、おかしかつた。

ぼくにはそんな勇気がなかつた。故郷を離れるとき、祖父と祖母が、口をそろえていつた、どんなときでもじつと我慢をして、辛抱をするように、ということばが、二人の老人のシワのふかい顔とかさなつて、甦つてくるのだった。故郷がつきまとうのだ。

ぼくは夜学へはいかなかつた。かわりに、ボクシングジムへよつた。夜学へ行き、さらに大学へといつて、工場の工員から脱出することで、何のために生まれてき、何のために生きているのか、が、つかめそうではなかつたからだ。ぼくは自分をいじめたい、と思った。他者に、めちやくちやに、殴られたい、と思つた。だからボクシングジムへいったのだ。自分をつかむ手がかりが、何かりつけるのだ。指導員の笛を合図に、ぼくらは五〇台のバイスにむかつて、ガチャン、ガチャン、くる日もくる日もなぐりつけた。ハンマーをつかんだ手の平は、いくつの血まめがやぶれ、タガネをつかんだ左手の甲は、スカをくらつたハンマーでしたたかにどつかれて、浅黒く腫れあがつた。なんだか、自分で自分を、執拗になぐ

りつづけているようだつた。痛かつたし、苦しかつた。

養成工としての三年間を卒業して、現場へた。仲間たちは、日本列島の表海岸の、四大工業地帯へと、それぞれ分散していったわけだ。ぼくはそのまま神戸の工場だつた。

工場の仕事は、昼、夜、徹夜、と、三交替だつた。圧延機でステンレスをうすくのばす。圧延油によごれ、汗にぬれるまいにちの連続だつた。

工場と寮は、目と鼻の間だつた。仕事でぐつたり疲れ寮で死んだようにぐつすり眠る。目がさめると、また工場だつた。

養成工時代の仲間たちは、辞めていく者がおおかつた。工場の、工員などしていたら、何のために生まれてき、何のために生きているのかわからない、というのだった。かれらは夜間高校へかよい、卒業すると、大学受験のために辞めていくのだった。

ぼくにはそんな勇気がなかつた。故郷を離れるとき、祖父と祖母が、口をそろえていつた、どんなときでもじつと我慢をして、辛抱をするように、ということばが、二人の老人のシワのふかい顔とかさなつて、甦つてくるのだった。故郷がつきまとうのだ。

ぼくは夜学へはいかなかつた。かわりに、ボクシングジムへよつた。夜学へ行き、さらに大学へといつて、工場の工員から脱出することで、何のために生まれてき、何のために生きているのか、が、つかめそうではなかつたからだ。ぼくは自分をいじめたい、と思った。他者に、めちやくちやに、殴られたい、と思つた。だからボクシングジムへいったのだ。自分をつかむ手がかりが、何か得られそうな気がしたのだった。

青春とは自分の力で創りだすものであり、そしてそれを、掴みとるものである、とぼくはおもう。工場で、圧延機にむかつて三交替の仕事をしながら、ぼくは欠かさずジムの扉を開けた。

青春とは自分の力で創りだすものであり、そしてそれを、掴みとるものである、とぼくはおもう。工場で、圧延機にむかつて三交替の仕事をしながら、ぼくは欠かさずジムの扉を開けた。

布のようになつてゐるはずなのに、ジムの門をくぐつたとたん、生氣がよみがえつてくるのだった。ボクシングを、苦痛だとは、すこしも感じなかつた。同時に、工場が、圧延機での三交替の仕事が、そう気にならなくなつた。ぼくは歯をくいしばつてサンドバックを叩きつづけ、縄とびを跳びつづけた。全身、汗、ぐつしよりだつた。大きな鏡にむかつてシャドーボクシングをつづけながら、自分の、得体の知れない影をなぐりつづけた。

数々のスパーリングをこなし、プロのライセンスをとつた。西日本の新人王戦にもでた。三キロから四キロかく減量して、パンタム級の選手ということだつた。工場の、口のわるい仲間たちが、いよおう、チャンピヨン、とぼくをひやかした。

ぼくにとつてボクシングとは、チャンピヨンになつて金を稼ぎ、いい生活をしたいためのものでは決してなかつた。ちょっとカッコウをつけていえは、自己認識の手立て、自分を客観的に捉えるための手がかりだつたのだ。いや、故郷や、母から離れて、完全に自立でき得ない自分を、たたきのめすためのものだつたのである。顔が腫れ、目がぶぶれ、鼻がひんまがつた。もともと、ボクサーとしての資質はなかつたのかもしれない。それでもぼくは、わかつていつた。

だけどぼくは、二〇歳をすぎてしばらくすると、ボクシングをやめた。

神戸での試合のときだつた。相手は学生で、在日朝鮮人だつた。一ラウンド二ラウンドとぼくはぶつとばし、猛牛のようにむかついていた。なのに、相手はすこしもこたえていない。あまりにも冷静かつ沈着なのだつた。むかつていきながら、ふつとぼくは、ボクシング以外のことを考えてしまつた。つまり、びくともしない相手にむかつて、むやみにパンチをふるいつづける自分の姿を、観てしまつたのである。急に全身の力がぬけ、徒労を感じた。

そのぼくのところを、相手はいちはやく読んだようだ。

むかつてきた。ハンマーのような重いパンチを、ぼくの顔面に、みぞおちにたたきこんできた。ぼくは逃げた。ロープに閉まれたリングの内側を逃げまわる自分を、欄の中のひよい小動物のように感じた。コーナーから会長のアドバイスがとんできた。だけど、手がない。手がでないどころか、会長の怒声が、調教師のそれのようにひびいてくる。

もういい、と、ぼくは自分で自分を得心させた。もう、これ以上自分をいじめることはない、と、鋭い相手のパンチを浴びつづけながら、ぼくは自分を納得させた。

「ねえ、兄ちゃん」と、ふいに冬子がぼくを呼んだ。え、とぼくは息をのんだ。

「兄ちゃん、疲れているみたい。顔色がわるいわ」

冬子が心配顔でこちらをのぞきこむようにしていつた。そうや、仕事のせいや、といつて、ぼくはちいさくわらつた。

「生きしていくことはしんどいし、大変なことよね」と、ひとりごとのように、妙におとなびた口調で冬子がいった。

「そうや、大変なことや」といいながら、ぼくはたばこをくわえた。なんだか、こちらのところの中を、見すかされているような配達だ。

「ところで兄ちゃんねえ」と、あらたまつた口調で「うちのお母さんも、紡績工場で働いていたんだってね。若いとき……」と、冬子は思いだしたように訊いてきた。

「そうや、ずっとむかしのことや。奈良の大和郡山だつたとかきいたことがある」

ぼくはこたえた。ぼくたちの故郷は、紡績女工の大供給源といわれている。

母たちの時代は、めろ（女中）で泣こよか、紡績にはつちけ（行ってしまえ）、の極端なころだつたという。郷士や地主の家の、農具の一部としてあつかわれ、苛酷な仕事に泣かなければならぬよりも、いかに苦し



く哀しいとはいへ、紡績の方がまだしも楽だったというのだ。

母たちはイモづるのよでかけていった。たとえば、一人の出稼ぎの女工が休暇でかえつてくる。そして、ふたたび工場にもどってくるときには、かならず二、三人の娘たちをつれている、という。シラス台地の、貧しい土地からはいざりでた母たちは、まるで、一本のイモづるにぶらさがったイモの子のようにして、工場へいったのだった。ぼくが生まれるまえ、冬子が生まれるずっと以前のことだ。

「ふーん」と、感心したように冬子はうなずいてから、思いあつた、といったふうに

「だから、だから母ちゃん、耳がとおいんや。うちも、最近だんだん耳が遠くなつてくるみたいやから、母ちゃんに似て、遺伝かなあ、て思つとつたんや。ちがうわ、紡績のせいや、機のせいやつたんやわ」

「恋人がいるのか」

「恋人……」と、彼女はわざとらしくきかえし、こちらが黙つていると

「だつて兄ちゃん、あたしだつて女よ」  
といつぱしないいかたをして鼻を高くした。ぼくの胸の内を、つめたいものがながれた。冬子を、生身の女として捉えたくない、というぼくのエゴイズムのせいかも

と、口早にいつてしきりに得心した。ぼくはなんだか哀しくなつてきて口をつぐんだ。母は女工時代、苦労したはずだ。なのに、自分の娘をも、女工にしたのだ。冬子がはじめて播州へきたとき、ぼくはそのことで、母の無知をにくんだものだ。だけどそれは、母の無力のせいばかりではないのかもしれない。いずれにしろ、冬子を故郷へかえさなければならない。

「おまえ」と、なるべく冬子の顔をみないようにならがらぼくはいった。

しれない。

「西脇の男か……」とぼく。

「そう。大工さんよ」と冬子。

「歳はいくつぐらいや……」

「あたしより四つぐらい上かな、二十四か五くらいやと思ふわ」

「そうか……」

「それで、郷里の母ちゃん、父ちゃんは知ってるんか」

「うん。けど……」

「父ちゃんが反対やねん。西脇の男は、あかん、やて」

「ほうか……」とぼく。ほっと息をつきながら、父親の

反対に、どこか安心している。

「ほうやねん」と冬子。「見合いの相手やつたら、郷里

になんばでもおるから、帰つてこい、やで」

肉親に対する愛は、最大のエゴイズムである、とぼく

も思う。父性愛もまた、そんな類のものなのだろうか。

「勝手やろう、父ちゃんいうたら、いやらしいやろう」

「それで、郷里へ帰ることにきめたんか」

「うん、今年いっぱい、おそらくとも来年の春までに」

「それでええ、それでええ」

ぼくはいった。結婚のことはさておいて、冬子の身体

の方が心配だった。彼女は故郷へかえって、静養しながら定期的に医者へかい、合間あいまに、何か習いごと

でもするべきなのだ。冬子は女なのだ。

ボクシングをやめてから、ぼくはジャズバンドで特朗ベットを吹いた。工場へもペツトをもちこんで、休憩

時間も熱中した。演奏会やダンスパーティのステージで、

グレンミラースタイルのスティングジャズのリズムについた。三年ちかくつづいた。ステージに立ちあがつて、

ソロを奏でるぼくは、カッコいいはずだった。だけどぼくは、それがにせものの自分であることを、誰よりもよく識っていた。だからペツトをすて、読書会へいった。

「故郷へ帰れる冬子がうらやましいわ」といながら、ぼくは腕時計をのぞいた。約束の一時間がこり少なくなっている。

「なんで……」と冬子がのぞきこんだ。

「わしには、帰れる故郷がなくなつてしまふ」

「だって」と、冬子は獨得の、叫ぶようないかたになつた。

「だつて、うちがおるやんか、冬子がおるやんか。それ

に、うちの母ちゃんもおるやんか。何時でも帰つてきた

らええやんか」

ふいにぼくは何かが胸につかえ、涙がでそうになつた。

だから足をふんばつてたちあがつた。下手をして、泣い

たりしたら大変だ。

ぼくたちは冬子の部屋を出て、ならんで階段をおりて

行き、寮の外へた。いつのまにか雨はあがつていた。

山をとつぶりおおついていた濃い霧が、じよじよに晴れて

いくところだつた。空気が澄んで、風がひんやりと頬を

なでた。冬子は背伸びしながらこちらを見つめ、満足そ

うに笑つた。

「郷里へ帰るまえに、神戸によつていかなあかんで」ぼ

くはいつた。

「兄ちゃんたちの生活ぶりを、祖母ちゃんや母ちゃんに

報告せなあかんから、きつとよる」と、冬子はいたずら

つぽくいつた。

ぼくたちは互いに右手をあげ別れた。ぼくは何度か

ふりかえつた。冬子は工場の前でこちらを眺めている。

手をふつた。

橋をわたつて杉原川をくだつていきながら、ぼくは、

もう自分のぞくまい、と思った。両足をふんばつて、

前へとむかつていかなければならない。

商店街を通りぬけて、駅前へ行くと、三宮行急行バス

が、いままさに、発車しようとしていた。ぼくは走つた。

## talk and talk



<神戸っ子愛読者サロン>

★ こんにはちは。おひさしぶりです  
が皆様お元気ですか？

博多へきてかれこれ半年たちました  
したが、変わりなく毎月神戸の風を  
運んでくれるよう、「神戸っ子」  
をお送りいただきありがとうございます。  
多くの冬は、南国九州の  
地というよりも、玄海灘に面する  
裏日本というべき気候で、寒く  
暗くウェットな冬でした。それ  
も桜はやっぱり日本各地よりいく  
から早く春を告げ、もうしき爽や  
か月さんといった風情であります。

プロ野球開幕とともに、テレビ  
・ラジオはライオンズとジャイア  
ンツにしてスリップされ、我タイ  
ガースは新聞の片隅にチョッピリ  
のつてはおどりであります。当地で  
は、やはり太平洋クラブライオン  
ズのファンならんといかんばい。  
毎日通勤する西鉄は、どういうわ  
けやや盛りをすぎたO・J・さん  
車が多く、やはりあの「阪急電  
車の若いお嬢さん達がつかしく  
あります。

もうじき5月。神戸では例年の  
ごとく神戸カーニバル（今は神戸  
まつりというのですか）の季節で  
すな。当地博多では、「どんたく」  
といふお祭りがあります（5  
月3日、4日頃）。當日頃は私共  
のような異民族が博多の街（干洲  
や天神や）を、殖民地の如く（博  
多は全く、支店・支社・出張所の



★ 神戸ではお世話のなりばなし  
おかげであのすべてのびっくりと  
発見と久しぶりで本物の「神戸」  
を再発見いたしました。ありがと  
うございました。私にもう神戸か

街で、どこへいっても東京族、大阪族共がハイカイしております)のさばっているのを、ぶよとばす  
ような、博多どんたくあります。魚はおい  
を願って楽しめています。山  
2~3年、博多に遊びにきたつ  
もりであります。が、住めば都。  
ひょっとすると5~6年いること  
になるかもしれません。魚はおい  
しいし、車の混雑は万博前の大坂  
を思い出すような、工場がないか  
ら、いつたい何で食べているのか  
さっぱりはっきりしない街ではあ  
ります。

明日は日曜日。柳川へでもいっ

て、ウナギのせいろむを食べて  
「神戸っ子」をしのぐような郷  
土誌は今のところ当地には見当り  
ませんが、そのうちまたいいのを  
みつけでお送りいたします。

「神戸っ子」をしのぐよくな柔軟  
な女の子は今のところ当地には見  
当りませんが、そのうちまたいいのを  
みつけでお送りします。

神戸をしのぐよくな柔軟な博多は  
今のところなっておりませんが、  
そのうち私が素敵な街などにして  
みたいと思っております。

☆ 「神戸っ子」をしのぐよくな女  
の子ナンテンのはずアラヘン。

（博多 小林郁雄）  
★ 「神戸っ子」をしのぐよくな女  
の子ナンテンのはずアラヘン。  
「神戸っ子」をしのぐよくなタウ  
ン誌ナンテンはあるはずアラヘンでし  
ょ。早く神戸へ帰っておいで。神  
戸をもつとステキな街にせんとア  
カンのよ。ネフ！

△編集部▽

ら五名の感激の便りが若い人から  
ときました。新幹線での帰路、  
布引の滝を見物。水量あふれ（昨  
夜の雨）に美しかったです。山  
奥の茶屋のおかみさんがあつまつ  
てまっせ。だって、（横浜市 淀川長治）  
☆月刊神戸っ子の15周年記念文化  
講演会。楠本憲吉、朝比奈隆先生  
とともに、ほんとに楽しい楽しい  
楽しい、涙こぼれる神戸のお話を  
ありがとうございました。

編集部へも感激感激感激！と、  
お電話があり、大変喜んでいます  
それではサヨナラサヨナラサヨナ  
ラ△編集部▽

★ 夏になったり、初春になったり  
相い變らずクレージーな気候の日  
日が続いています。ちょっとこち  
ら（ニューヨーク）の近況を報告  
します。UPTOWNはいわゆる  
シノワーズ（フランス語で中国人  
という意味ですが）一辺倒でやは  
りファッションは東部においては  
（殊にUPTOWNではないので  
すが）フランスの影響が圧倒的で  
とうとうですね。音楽でいえば  
黒人のリズムの強い、いわゆるデ  
ィスコミーディック（踊る為の音  
楽）がNO.1です。もっとも売  
れ行きの話ですが JAZZは相  
変わらず根柢バイハンドの音  
ようです。それに面白いことに最  
近日本からくる若い人には、JAZZ  
が大変でいるようです。

建国三百余年は、あまりにも商業  
的で一般の人はあまり関係ない  
感じです。これはアメリカ人（殊  
にニューヨーク）の生き方でもあ  
るのでしょうか。絵はちょっと一  
時のアーティストトランペッシャ  
ニズムが影をひそめて、ちょ  
とミニマル・アート系のもう少し  
形のあるものになっていよい  
うであります。

（ニューヨーク 藤尾論秀）

## KOBE POST

★ 神戸新聞の第一面の「笑点」を  
七千回描き続けたマンガ家のたか  
はしもさんが「フリー宣言」。  
5月27日、もはやさんの乳離れの  
会々が田辺聖子、川野純夫ご夫妻  
のきもいりによりニューポートホ  
テルで開かれました。ガンバレも  
うさん／「フリー宣言」の一文を  
紹介。



フリー宣言

アトリエ／神戸市兵庫区小河通3  
⑬ 078-6865 デスク／神戸市兵庫区浜町通7-3  
13 ニューポートホテル 1331号

★ モダンダンスの今藤尚子さんが  
日本の音とモダンダンスの出会い  
をテーマに創作を続け、6月10日  
（木）午後6時30分より「花舞」雪  
の抄、月の抄、花の抄を、庄司裕  
の演出・振付で、第5回公演を開  
きます。作曲／藤井推進、音楽監  
督／宮川邦生、美術／前田哲彦、  
照明／林惠介、舞台監督／中倉敏  
博。出演／小沼康浩、笛／藤崎由子  
峰、中川善男、太鼓／藤舎呂悦、  
中村春流、三味線／今藤美佐緒、  
唄／今藤尚子らのみなさん。入場  
料2500円お申込／391518

★ 兵庫県美術祭、同生創立30周年  
記念の美術祭が、神戸市立美術館で  
5月28日、盛大に開かれました。

卷之十一



小小小 楠貝鴨柏嘉喜金 小岡牛櫻石石乾砂青 朝  
林泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野 野木奈  
秀徳芳良憲六 健毅正元一真 吉正成信豊 重  
雄一夫平吉一玲一六治彦夫造忠朗一明一彦仁雄隆

津高陳田玉田田武滝滝竹角砂塙新白佐雀坂古後上  
高橋 辺井中宮田川川中南田路谷川藤部井林藤林  
和 舜聖 健虎繁勝清 猛重義秀 昌時喜末英  
一孟臣子操郎彦郎二一郁夫民孝雄渥廉介忠樂二一

神淀行元百村光宮宮松福深畑野成南難中中西西直外竹  
戸  
青川吉永崎上田地崎井富水 澤瀬部波西卷脇村木島馬  
年  
会長哉定辰正頃裏辰高芳惣専幸香圭 太健準  
議 二三之  
所治女正雄郎司二雄男吉郎部梅三還勝弘親功郎吉  
三

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとこけになりたい方は、編集室でお申込み下さい。さっそくお送りします。

月一干支「子」は足しばかりないと ころでお求めになれます。
神戸文化ホーク
★神戸市内のホテル
オリエントホテル
リーガロイヤルホテル
神戸市生田区京町
ニューポートホテル
神戸市葺合区浜辺通
神戸市葺合区熊内町
ホテル三宮セントラル
神戸市葺合区布引町
六甲山神戸ホテル
六甲市灘区六甲山町
六甲オリエンタルホテル
灘区六甲山西谷上

ディラントアロード店  
 神戸市生田区元町2  
 ☎ 078-212-7110  
 デキシーランドストア  
 神戸市垂水区鷺島通4  
 れんが亭(トア・ロード)  
 神戸市生田区下山手通2丁目34  
 スペークバーンの店キヤンティ北店  
 神戸市生田区下山手通2丁目34  
 ★スタンド・ナック  
 クラブ・小万  
 バス・チャーリントン  
 ナベール  
 神戸時代  
 北野町  
 ディラントアロード  
 神戸市生田区元町2  
 ☎ 078-212-7110

★大阪区のホテル  
ホテルブランザ1Fロビー「キオスク」  
大阪市大淀区大淀町南2丁目2  
TEL 03-5411-1111  
★神戸の喫茶店  
にしむら珈琲店  
神戸市生田区中山手通1  
にしむら珈琲センターハウス  
神戸市生田区三宮町二丁目  
TEL 03-5411-1111

## 編集後記

★神戸まつりの記事が全國的に取扱われていて、各地の知人から電話がかかるべきだ。かかってきたときは、必ず「神戸まつりと暴走族事件がからみあって泣くに泣けないあります」とおっしゃる。暴走族の跳梁は市民社会への不敵さを挑戦にはかならない徹底的に取締るべきである。西原記者の殺害事件こそ真相を究明しなければならない。それが弔いに来ましたから、今度は盛りあげて来た人達や、レコード出場者の中で相コトバができる。「暴走族に負けるナ！」お祭りを止めるのはよい簡単。市民がここでどう新しい神戸まつりを考え、実行するかというエネルギーが何としても必要。薄っぺらい神戸では

号の福爽やかな女性作家誌の神戸を扶る力★ポートイルカの波として波瀬書けない★15周年神戸までのあとといへん。な状況。★〃海賊に船よりもまた、節がやっ

九、山本兩先生の全力投球は、なんら感動的で、その連戦が始まる。来月から八月までの文字實も設定された。状況分析の作の応募を望む。『佐井ノア』アイランドに北公園が完成する頃、噴水彫刻が訪れる人を歓迎する美深をあげての様は文字にも書きしき。『中村雅子』や、それを迎む人々の心を描く。忙しい日々が過ぎ去る。残るは、原稿出稿。さあまた編集後記が編集前記みたいに、『八川崎啓一』『線物語』の取材で久しぶりに六甲の山脈を眺める。今年はあじさいの花が気になる季節ってきた。『岡田なな子』

6

困る。ムゴイ犠牲に何とか応えなく



今やライセンスは  
女性の必需品よ！

江田 敦子さん

〈ファッションデザイナー〉

「神戸自動車学院へ3月2日に入学して4月に卒業、5月11日に免許をもらいました。先生がやさしくて、とてもいい人が多いみたい。ちょっと遠かったけれどバスがあるので便利でした」と語る江田さんはアシスタントデザイナーから独立してアトリエを持ったばかり。やっとお客様のところを車で廻れると嬉しそう。



■スタッフ紹介 / 西木孝一（当院長）

「絶対事故を起さない生徒を作る教習内容ですよ」と元生田署長の西木院長は、釣と野球好きのおじさま。

●ライセンスローン開設！

公安委員会指定・技能試験免除

神戸自動車学院

☎ 581-1207(代表)

神戸市北区緑町3丁目6番1号  
(神鉄山の街下車)

## わたしと土鈴〈1〉

「土鈴」との出合い



山田 旺



「土鈴が鳴る」  
土鈴が鳴る  
わたしのころに  
た日など、土鈴を取りだして一振  
りすれば部屋いっぱいに鳴り響き  
音が、色が、形が、さまざまに心  
を慰さってくれます。  
「カラコロとわたしのこころに

鈴の音に「やまとごころ」をし  
なんだといわれている国学者、本  
居宣長は、鈴を愛玩用に活用した  
最初の人かも知れませんが、わた  
しは、旗先の郷土がん具がならぶ  
店で、ふと目にとまり心に引かれ  
買って帰った土鈴、そんなひよ  
んなことから土鈴を蒐集しはじめ  
て、かれこれ十数年が経て、その  
数、二千数百個になんなんとして  
います。

その地方の土質や、焼く窯元の  
焼き加減によって、素焼の土と土  
とのどちらかの音が、みんな違つた  
暖かみのある軽快な、そして素朴  
な音になつて響きわたり、土鈴の  
もつ味わいをつたえてくれます。

土鈴の発音はきわめて古く、又  
遠く古代にさかのぼり、その呼び  
名も「はにすず」「どれい」とい  
われ、ひとりわが國のみでなく世  
界各国で作られた原始的な楽器で  
した。いつの頃からか、その音の  
響きは魔除けに効力がある、とい  
うところから、信仰、俗信の対象  
物に扱われ、神仏、祭祀に用いら  
れ、後に装飾品にも用いられるよ  
うになりました。

旗先で、いい土鈴が見つかれば

多い時は両手さげ一杯に持ちかえ  
り、一つ一つ包みから取りだし、  
鈴の音に耳を傾けながら、棚にな  
らべていく楽しみは、又かくべつ。  
診療をおえ、疲れた体で帰宅し

た日など、土鈴を取りだして一振  
りすれば部屋いっぱいに鳴り響き  
音が、色が、形が、さまざまに心  
を慰さってくれます。

# 神戸のうまいもんとドリンク

## ★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭  
兵庫区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 くれなゐ 三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぱう吉 本  
生田区加納町3丁目95-1  
(ニュージャパン別館前) TEL 241-3450

鍋もの・おもすび 悟味西  
お茶漬・かはた 生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちカタウン TEL 391-5319

お茶漬・おもすび  
鍋もの ふる里  
生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535

たこ焼 たちばな  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷  
生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770

カニ料理 婆婆羅(ばさら)  
生田区北長狭通1丁目18  
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F  
TEL 321-6363

Objects D'art 瀬戸戸  
美術喫茶 Seto  
生田区山本通3丁目27の9  
瀬戸ビル1F TEL 221-6548

★西洋料理

レストラン アボロン  
兵庫区八幡通5丁目6 TEL 251-3231

レストラン 鹿皮〈あらかわ〉  
生田区中山手2-9 TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門  
生田区中山手通2丁目98/99 TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭  
生田区下山手通2丁目34 TEL 331-7168

レストラン セントジョージ  
生田区北野町1丁目130 TEL 242-1234

レストラン 男爵  
生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷  
三宮フラワーロード市役所前 TEL 251-2109

鉄板グリル きやんどる  
生田区北長狭通2-22 TEL 331-1183

ボリネシア料理 海賊焼  
神戸港第4突堤ポートターミナル  
TEL 331-0301

居酒屋 ロス・ヒターノス  
生田区下山手通3丁目22  
下山手セントラルハイツ  
TEL 391-5431

レストラン ムーンライト  
三宮・生田新道 TEL 331-9554  
月六 段  
生田区元町通3丁目 TEL 331-2108

グリル・鉄板焼 BARBECUE & STEAK  
生田区元町通3丁目 TEL 331-2509

ステーキ & ドリンク  
神戸館  
生田区下山手通2丁目29の3  
アマツビル1F TEL 321-2955

★喫茶 宮本のコーギー  
中山手店・センターストリート  
生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F  
TEL 221-4343

フランス料理 ビストロドゥリヨン  
生田区山本通2丁目40-1  
TEL 221-2727

ピッソアハウス ピノッキオ  
生田区中山手通2-101 TEL 331-3545

レストラン フック東店  
生田区栄町1-5-3 TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店  
兵庫区琴緒町5丁目1-7 西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス グリル青山  
生田区中山手通2丁目112-2(トアロード) TEL 391-4858

レストラン フック神戸店  
生田区栄町通2丁目24 TEL 321-3453

レストラン フランス料理 元町フルーツホール  
元町1番街 TEL 331-1987

ピザ・パブ ピザ・パテオ  
生田区元町通1丁目49(元町1番街)  
TEL 331-9378

ナイトラン 火の鳥  
生田区中山手通1丁目27 TEL 242-1330

スカシディナビア料理  
世界の民族音楽の店  
ゴックスタッド  
生田区山本通3丁目18回教寺院前 TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 ティファーナ  
生田区中山手通1丁目4/12 パールコーポラスピル1F  
TEL 242-0043

ステーキ & ドリンク 黒牛  
生田区中山手通2丁目39の36  
TEL 241-3739

炭焼きステーキ ホンダ  
ハウス 生田区北長狭通1丁目43-6(生田新道浜側)  
TEL 321-0054

ステーキ & ドリンク 神戸館  
生田区下山手通2丁目29の3  
アマツビル1F TEL 321-2955

★喫茶 にしむら珈琲店  
生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872-231-9524  
センターストリート  
生田区三宮町2丁目35  
TEL 391-0669

北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467  
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶ガーデニア  
生田区東町113-1 大神ビル1F TEL 321-5114

琲モーツアルト  
生田区山本通2丁目98 グランドマンション1F  
TEL 241-3961

ティー & スナック エボック  
生田区元町通3丁目(浜側) TEL 331-3694

コーヒースポット メディタレーニアン  
生田区北長狭通3丁目(トアロード)アーバンビルB1  
TEL 331-2050

ク ラ ブ 千  
生田区下山手通り2丁目21 TEL 391-1077

club 飛鳥  
生田区中山手通1丁目117 TEL 331-7627

club 小万  
生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638-4386

club さち  
生田区中山手通2丁目75 TEL 331-7120

club なぎさ  
生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

くらぶ ぶーげん  
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F TEL 331-8593

club Moon Light  
BAR TEL 331-0886-391-2696  
Club TEL 331-0157

クラブ るふらん  
生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK スカラレット北野  
お好み鐵板スナック  
生田区北野町2 北野アーバンライフ1F TEL 242-0056

ドリンク & レストラン ベルビュードール  
生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F  
TEL 321-5677

スタンド かてな  
生田区中山手通1丁目90 英壁ビル1F  
TEL 331-1316

洋酒ハウス 雜貨屋  
生田区下山手通2丁目8の6  
(生田新道相撲タクシー横上) TEL 321-0260

スタンド グラムール  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

スナック&ドリンク 姫  
生田区中山手通1丁目18 TEL 221-1950

カクテルラウンジ サヴォイ  
高架山側 テキの店北 TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス  
生田区下山手通1丁目32 TEL 241-7320

スナック ピジービー  
生田区中山手2丁目 TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー  
生田新道浜側中央KCBビルB1F TEL 331-3575

Wine and something 珍地理屋  
生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

サロンドン 神戸時代  
生田区中山手通1丁目28  
モンシャトウコトブキビル TEL 242-3567

ナイトイン おしゃれ貴族  
生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザB1 TEL 242-1925

スタンド クラブ  
生田区中山手通1の72 TEL 331-6985

キヤンティ  
本店洋酒の店  
北店スープとパンの店

DRINK SNACK スネカリッ子  
生田区下山手通2丁目  
永晃ビルB1 TEL 391-8708

music spot サントノーレ  
トアロード店 生田区下山手通2丁目トアロード  
TEL 391-3822  
北野店 生田区中山手通1丁目24-7  
ダイワナイトプラザ6F TEL 221-3886

スナック まくわ洞でつさん  
生田区北長狭通1丁目258  
TEL 331-6778

STAND マシユケナダ  
生田区下山手通2丁目ちいなタウン地下  
TEL 331-5587

スナック GASTRO  
生田区中山手通3-20  
トアマンション TEL 231-0723

ティー&パブハウス バスチャーリントン  
生田区北長狭通2丁目(トアロード) TEL 332-1125

純会員制 エドワーズ俱楽部  
生田区北長狭通1丁目28  
ホワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

サロン アルバトロス  
生田区中山手通り1丁目24の7  
大和ナイトプラザ2-B TEL (231)3300

CAFE WHISKY 『音楽の家』ETエトワTOI  
生田区三宮町3丁目 三宮センター街西入口  
スカイアビル3F TEL 332-1755

スナック 山莊  
生田区北長狭通1丁目22 TEL 391-5823

ティ&カクテルラウンジ カカルトン  
生田区北野町3丁目2-67 TEL 241-4323

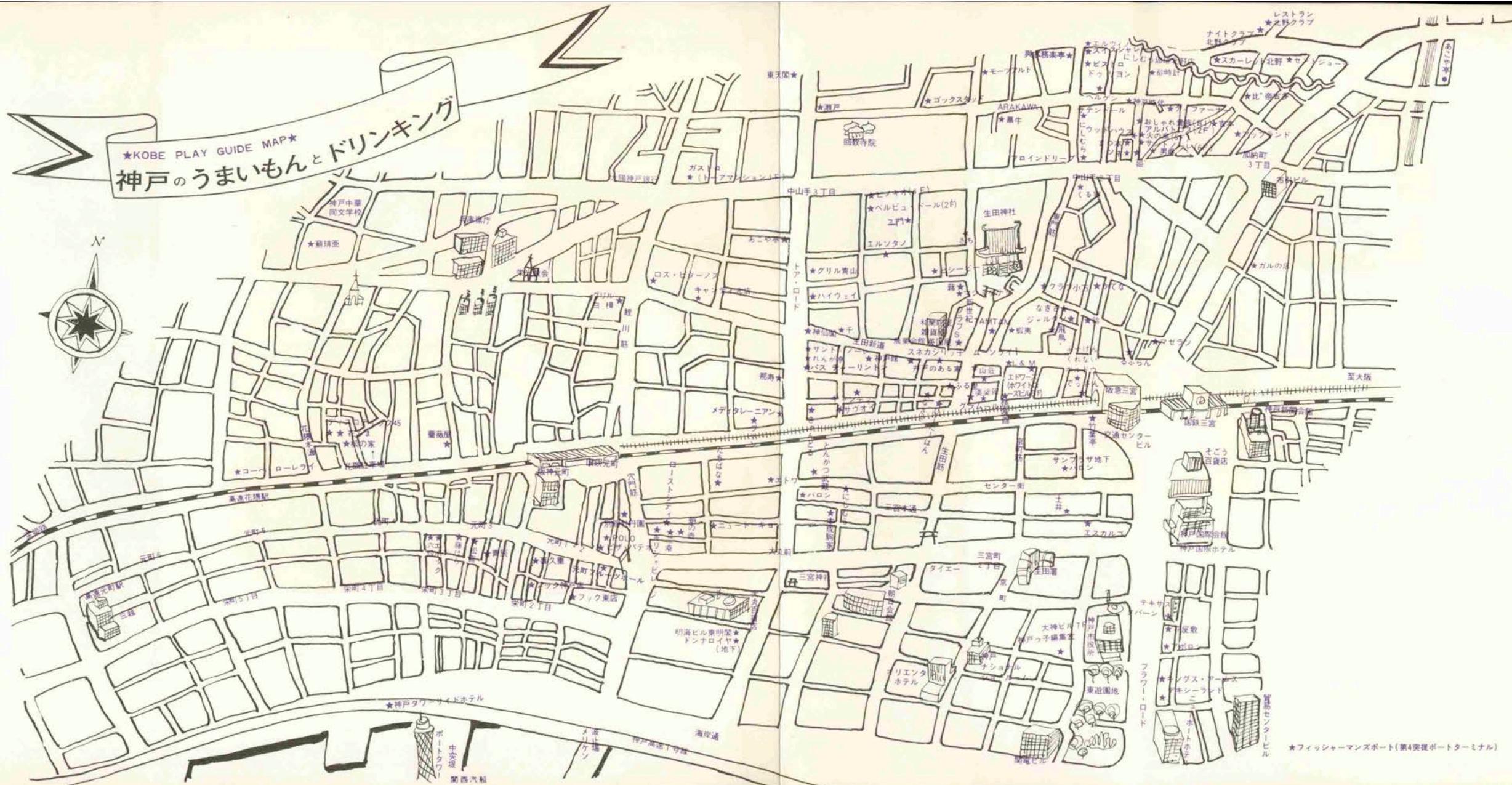
スナック 興志務樂亭  
生田区山本通2丁目60パールライフB1  
TEL 242-1977

SNACK L&M  
生田区北長狭通1丁目25 生田新道ビルB1 TEL 321-3070

スナック 美和  
生田区下山手通1丁目 TEL 391-3050

★KOBE PLAY GUIDE MAP★  
神戸のうまいもんとドリンク

★KOBE PLAY GUIDE MAP★





**baLOn**

antique  
series

〈40〉貝がら

松田 稜さん

（高校教師）

創ること。陶芸。一年前から若い人たちが自宅のカマに集まってくる陶芸教室を開きアイデアあふれる器の制作に余念がない。

「昔は西宮の浜で泳げた。海にもぐってみると、とってもきれい」小学校三年の時。以来、海の中へ！ 今夏はサメを追ってフィリピンの海へ。

手にするペンダントは獲物のタイの歯。何でも作ってしまう。そういえば陶芸教室に使う部屋、松田さんの手作りだった。

センター街店にて  
カメラ / 米田 定蔵



**バロシ**

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00～PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00～PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00～PM9:00迄

## 東西酒徒の取組どころ——クラブ小万亭



▲'76神戸酒祭りから



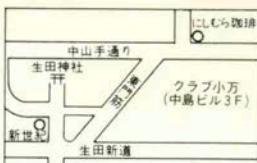
CLUB

# 小万

岩本 起代子

神戸市生田区中山手通1丁目114-1(東門筋)中島ビル3F

☎ 391-0638・4386





クラブ  
るふらん

神戸市生田区北長狭通1丁目53  
☎ 331-2854



酒肆  
ヌベール

神戸市生田区北長狭通2丁目14  
☎ 331-9005



スナック  
美和

神戸市生田区下山手通1丁目5  
☎ 391-3050



甘いギターの調べは  
ひとの心を酔わせる

心地よい酔いに  
身をまかせるとき  
琥珀色の世界がひろがり  
いつものこの店で  
今日一日の疲れをいやす

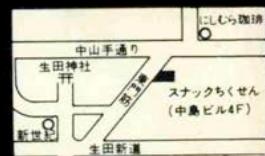
素敵な音楽と人の暖かさ  
それがこの店にはある

# スナック ちくせん

ちくせんミュージックタイム  
神戸のター坊の演歌熱唱  
平田正明のピアノ弾き語り

生田区中山手通1丁目114-1  
☎331-3131

近藤正美・岩本文夫



# Night in June



## 酒房 駒屋

生田区中山手通1丁目105  
宮ビル1F  
☎ 391-1333

居酒屋風の気楽に飲めるお店。焼きもの、煮ものなど各種の日本料理が楽しめる。誠実で感じがいいので女性にも喜ばれる。ロバートブラウン / キープ4,500 水割350 PM 5:30~AM 1 無休



## KIRIN CLUB

西宮市越木岩町11番6号  
苦楽園エクセル3F  
☎ (0798) 72-7833

夜6時まではティータイム。8時から11時までピアノ演奏が入る。店主催のゴルフコンペもやっている。ロバートブラウン / キープ6,000 (メンバー3,000) 水割700 AM 10~AM 12 日曜定休



スナック

## や ぎ

生田区北野町1丁目143-1  
リ・ハイム1F  
☎ 221-7897

親子二人でやっている店。だから、店の雰囲気も家庭的で、明るく和やかだ。また、場所がら若い人たちがよく集っている。ロバートブラウン / キープ6,500 水割500 PM 5~AM 12 木曜定休



## S N A C K KAZUMI

生田区下山手通3丁目22  
三石ビルB F  
☎ 332-1558

レンガ造りの洋酒棚などシックな感じの店。マイク片手に歌ったり気楽に飲めるのがいい。女性も仲々魅力的である。ロバートブラウン / キープ6,000 水割500 PM 6~AM 2 第2・4火曜定休



PUB & RESTAURANT

# U PLANDS

生田区加納町3 丁目

1-34

☎ 241-8271

## RANNOHANA 蘭の花

生田区中山手通2丁目30-1

東門大和ナイトプラザ5F

☎ 391-4455



DRINKING IS AN ART OF LIFE

# WOODHOUSE

生田区中山手通1丁目32

山内ビル

☎ 241-7320 • 7983

## KOBE DRINKING GUIDE

# SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57

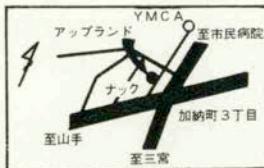
☎ 242-0100



☆『アップランド』のライブタイムを紹介します。毎晩7時30分から12時まで、月・水・金曜日はチャーリーのボーカル、火・木曜日はアキラ（ピアノ）と高垣（ベース）が、そして、土曜日には30分毎にチャーリーとアキラ＆高垣がブレイします。ステキな演奏をお楽しみ下さい。

☆ランチタイムメニュー（11：00 AM～2：00 PM）ランチ（日替わりメニュー、スープ、ライス又はパン付）¥500 ピラフ¥400 スパゲティ（イタリアン）¥400 同（ミートソース）¥500 サンドイッチ各種¥400 コーヒー、紅茶各¥250 ミックスジュース¥350 オレンジジュース¥250

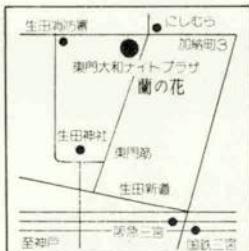
☆ローストビーフ¥2,700 ポークソーセージ¥900 シェバーズパイ¥850 ステーキ＆キドニーバイ¥800 フィッシュ&チップス¥600 コーニッシュバーステイ¥600 J&B、G&G、OLD、ビール各¥400  
平日11：00 AM～3：00 AM 祭日6：00 PM～3：00 AM 日曜6：00 PM～0：00 AM 無休



## アップランド

### KOBE DRINKING GUIDE

## 蘭の花



☆『蘭の花』——可憐でかわいい名前のお店がオープンしました。東門筋の坂の上、新しいビルのなかの小さな部屋です。お店の造りと色合いは趣味のよさを感じさせ、ほのかな気品が感じられます。小じんまりとした気楽な雰囲気のなかで気楽に飲めます。個性あるスタッフが気のきいたおしゃべりの相手をします。開店してまだひと月あまりですが、神戸の夜にやさしく咲く一輪の花——蘭の花はファンが増えつつあります。

☆キーパー / J & B ¥7,000 から。他にスコッチ、コニャック、バーボンなどお好みのボトルをキープします。水割（J & B）¥700 おつまみ¥600 また、食事もスパゲティ、ビーフシチューなど色々あります。

6：00 PM～1：00 AM 日曜日休み

☆『赤ヘル・ウッド』がお相手します。

すがすがしい季節、スポーツの6月になりました。以前、神戸っ子に紹介しました『ウッドハウス』の野球部がユニホームを一新、赤にまとめてみました。去年の広島、今年のウッド、赤ヘルに「W」のマークは今、中山手ではウワサの高いチームになりました。一度、『ウッドハウス』に来て下さい。口じゃ負けない連中が試合相手をきがしておられます。

『ウッドハウス』の強さ、今、はやりの言葉で「わかんねえだろうナ」ぜひ一度お手合わせを。『ウッドハウス』アキラまでご連絡下さい。

なお、今年からキーピングボトルをしました。ニッカG&Gとスコッチです。ぜひ1本キープして下さい。

☆ビール（小）¥400 水割（OLD）フィズ各¥500 おつまみ¥150  
スパゲティ・ピラフ各¥500

平日5：00 PM～2：00 AM 日曜5：00 PM～0：00 AM

第1・第3日曜休み



## ウッドハウス

## サテンドール



☆4月26日夜、『サテンドール』は若い熱気に包まれていた。東京から菅野邦彦（ピアノ）、菊地秀行（アルトサックス）を迎え、さらに若手のホーリー、ケンティン・バラデス（ギター）らを加えて、菅野邦彦の第2回コンサートが開かれたのだ。当夜は白熱のプレイが繰り広げられ大盛況であった。また、6月1日夜には池田芳夫カルテットのコンサートが予定されている。『サテンドール』ではこのようなコンサートの他、近日中には連夜休みなしに演奏が入る。月～土曜日は宮原透トリオ、日曜日には西山満ほか大阪の一流ジャズメンのプレイが予定されている。

☆『サテンドール』ではお1人様3,500円（税込、食事付、フリードリンク）で貸切りパーティを承っています。（昼間也可）

☆ボトル / G & G ¥5,000 カティーサーク ¥6,500 バーボン ¥5,000 から 6：00 PM～4：00 AM